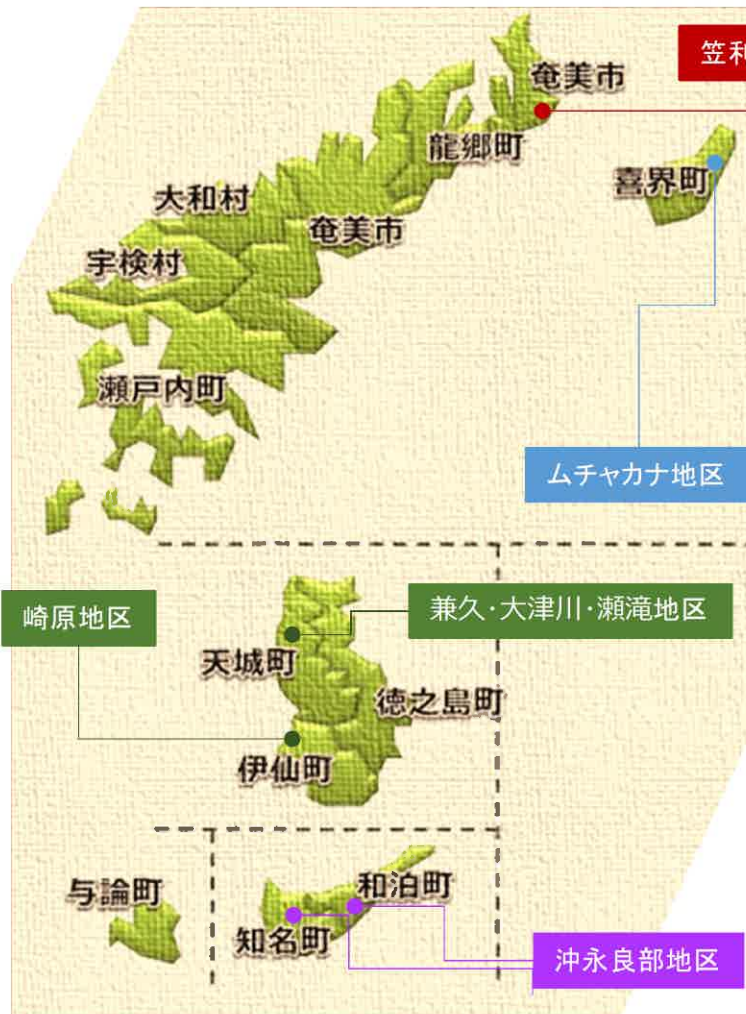


あ

～ 農林水産業の「稼ぐ力」向上を目指して～

まみみの農業農村



土層改良でサトウキビの収量アップ **農家所得の増加**
【奄美市 笠利地区】

P1

地下ダムの水を利用して高収益作物に **営農転換**
【大島郡喜界町 ムチャカナ地区】

P2

畑かんによる飼料作物増収で **畜産業への貢献**
肉用牛増頭 【大島郡伊仙町 崎原地区】

P4

畑かんによるばれいしょ増収で **農家所得の増加**
所得向上, 産地拡大 【大島郡天城町
兼久・大津川・瀬滝地区】

P5

基盤整備を契機とした農地集積と **農業の成長産業化**
高収益作物の生産拡大 【大島郡和泊町・知名町 沖永良部地区】

P7

令和4年10月
奄美群島農業農村整備事業推進協議会

土層改良の成果（収量アップ）による農家所得の増加

【笠利地区】
（鹿児島県奄美市）

【工夫のポイント】

- 畑地かんがい施設の整備による用水の確保や、土層改良による土壌条件の改善により、**さとうきびの単収が増加**。
- 生産現場では、植え付け作業の省力化、更なる単収増加を目指し、**植え付け作業の機械化を推進**。
- マンゴーやパッションフルーツなど亜熱帯性気候を生かした、水利用型農業の推進。

【取組地域の概要】

- 位置 あまみしかさりちょう
鹿児島県奄美市笠利町（過疎）



- 主要作物
・さとうきび、飼料、マンゴー、パッションフルーツなど
- 主な支援施策
・県営かんがい排水事業（S61～H18）
・県営畑地帯総合整備事業（S49～S60）
・県営畑地帯総合整備事業（H22～）

基盤

畑地かんがい施設の整備や土層改良の実施

畑地かんがい施設の整備や土層改良を行い、用水確保や土壌条件を改善し、**安定した農業経営**を実現。



基盤整備

（H22年～）

【整備前】

用水施設がなく、干ばつや台風等による潮風害に苦慮。

また、土壌が奄美地域特有の重粘土質で、農業機械の大型化等により、作土の圧密化等が進行していることから、硬化した作土の改善や土壌のpH改善等が必要。



生産現場

さとうきび植え付け機械の導入による労力軽減

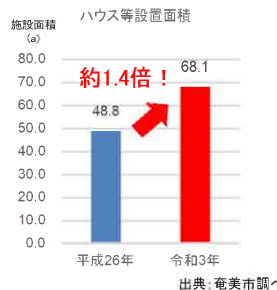
- 従来、さとうきびの植え付けは人力で行っているが、労力の軽減を目的に、**植え付け機械（ビレットプランター）を導入**。



地域の取組

畑かんを利用した水利用型農業の推進

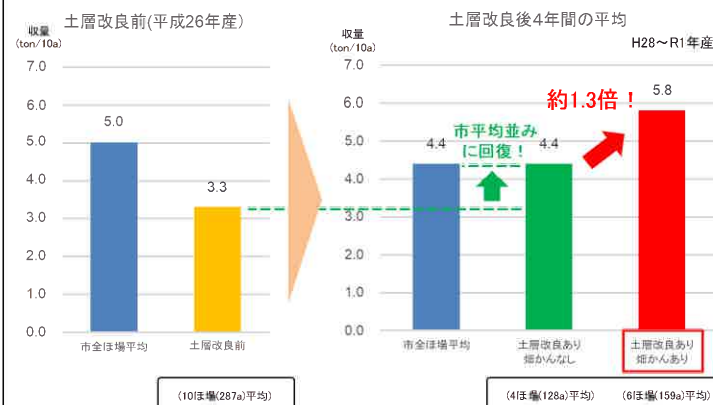
- 亜熱帯性気候を生かし、マンゴー、パッションフルーツなどの施設を利用した、水利用型の農業に取り組んでいる。H26以降ハウスの設置面積が19.3a増加。



単収の増加により農業経営の安定化に寄与

- 畑地かんがい施設の整備により安定した用水が確保でき、また、土層改良により土壌条件が改善され、さとうきびの**単位当たり収量が1.3倍に増加**。

整備したほ場と奄美市平均の収量の比較



- ビレットプランターの導入により、植え付け作業の省力化を図るとともに、**適期植え替えにより、さとうきびのさらなる単収増加を目指す**。

取組の概要

- 区画整理等による、基盤整備の実施
- 国営及び県営によるダム、畑かん施設整備に伴う天候頼みの不安定な農業からの脱却。
- さとうきび中心の作付け体型から高収益作物の導入による農業所得の向上

取組前

基盤未整備及び不足による不安定な農業経営

- 不正形な圃場と未整備な農道のため農作業効率が低い
- 畑かん未整備による干ばつ被害
- 台風等による、風塩害

天候頼みの不安定な農業経営



基盤整備の取組内容

区画整理や農業用水の安定的な供給による経営規模の拡大と高収益作物の生産拡大

地域(地区)の概要

- 位置
鹿児島県大島郡喜界町



- 主要作物
・サトウキビ, ゴマ, 飼料作物



主な支援事業

- 【第一次整備】
県営畑地帯総合整備事業(S49～H9)
- 【畑かん施設整備】
国営かんがい排水事業(H4～15)
県営畑地帯総合整備事業(H9～24)



畑地かんがい営農推進

- ・営農転換計画 (H25～)



取組後の効果

営農（推進状況）

育苗及び栽培者育成支援



育苗状況



栽培講習会

○営農支援センターハウスを活用した育苗による苗供給体制の確立。

○新規栽培者の育成や農家の栽培技術に応じた栽培講習会の実施による支援・推進。

栽培資材導入支援



導入したマルチ



○栽培資材導入支援により、経費の節減が図られることで、栽培面積の増加。
（※資材購入費の1/2以内の助成）

出荷・選果

出荷体制等



抑制かぼちゃ



早熟かぼちゃ



選果状況



選果状況



出荷協議会



畑かん状況

○12月～2月収穫の抑制カボチャ、4月～5月収穫の早熟カボチャ、収穫期が異なる栽培方法を実施することにより、長期間の出荷が可能。

○更なる品質向上を目指し、新品種の導入と栽培技術の実証等を検討し実施。

○選果機を導入し、安定した品質のかぼちゃを出荷。

○鹿児島市場を拠点とし、主に関東市場、北海道市場及び沖縄市場に販路が広がっているが、今後も更なる販路拡大を目指す。

作付面積・生産量・生産額

かぼちゃの 作付面積・生産量・生産額の推移



崎原地区

(鹿児島県大島郡伊仙町)

トランスバーラの畑かん利用による増収効果と肉用牛増頭への貢献(栽培面積拡大)



畑かん効果の検討会(実証ほ設置は徳之島町) M氏のトランスバーラほ場のかん水風景

主な整備事業

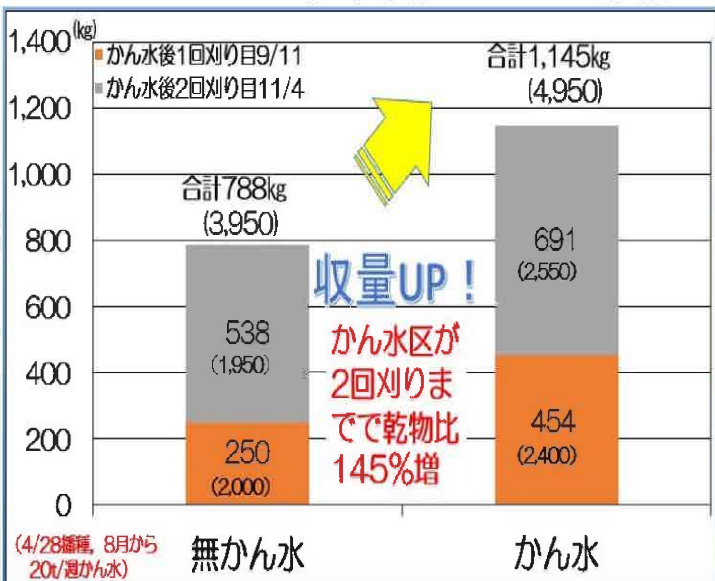
○国営事業【ダム等整備】

国営かんがい排水事業
(H9~H29:徳之島用水地区)
※H28年6月から通水開始

○国営附帯県営事業【畑かん施設整備】

県営畑地帯総合整備事業
(担い手支援型、一般)
(H27~R6)

【トランスバーラにおける畑かんの効果】



【徳之島の肉用牛戸数・頭数推移】



【トランスバーラ栽培面積の推移】

年月	令和2年3月		令和4年3月	
	栽培面積(a)	戸数(戸)	栽培面積(a)	戸数(戸)
合計	3,331	23	13,496	126

【農家の声】

- 地域で推奨されるトランスバーラは、植付時に特に水を必要とするため、植付は梅雨時期前に限られていたが、畑かん設置により、通年での栽培面積拡大と定着促進及び増収効果が図られている。
(栽培面積:設置前R2年0a→設置後R4年50a)
(年間収穫回数:設置前5回→設置後6回)
- 自給飼料の増収等により、計画的な肉用牛の増頭が実現している。
(飼養頭数:設置前R2年38頭→設置後R4年65頭)
- 周辺農家にも積極的に水利用効果を波及したい。



肉用牛農家M氏夫妻



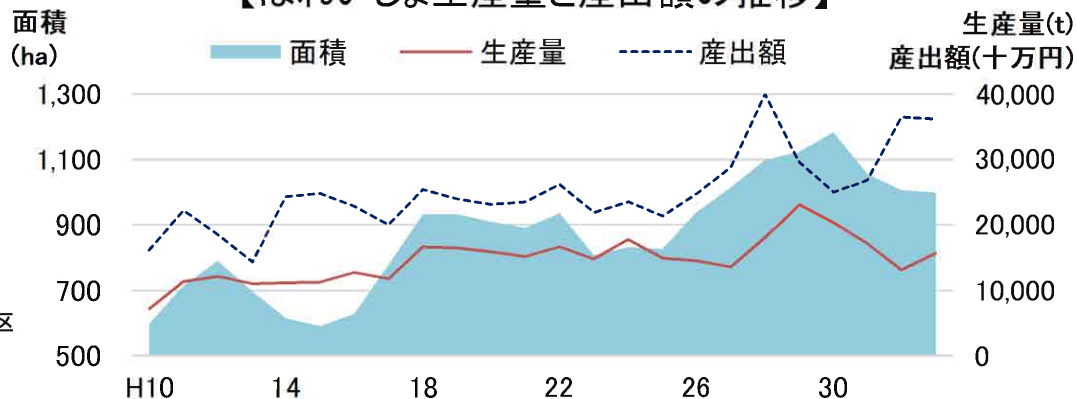
トランスバーラの給与状況

兼久・大津川・瀬滝地区 (鹿児島県大島郡天城町)

畑かんの活用による、ばれいしょ 収量増加で所得向上, 産地拡大

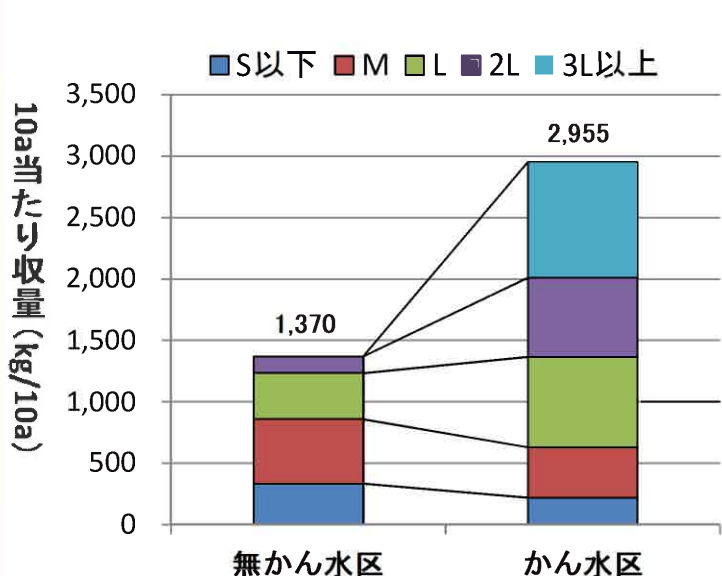


【ばれいしょ生産量と産出額の推移】



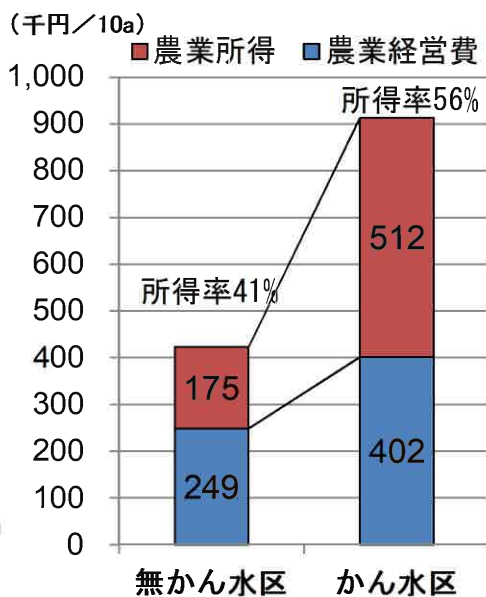
- 主な整備事業
- 国営事業【ダム等整備】
国営かんがい排水事業
(H9~H29: 徳之島用水地区)
※H28年6月から通水開始
 - 国営附帯県営事業【畑かん施設整備】
県営畑地帯総合整備事業
(担い手支援型、一般)
(H26~R6)

【10a当たり収量・品質】



* データ: R2実証ほ (H氏ほ場) 調査結果

【収益性の比較】



【農家の声】

- ・畑かんの水を使うことで**出芽率が高く安定し**, 生育も良くなった。
また, そうか病の発生率も下がった。
- ・雨の少ない年は特に畑かんの効果が高い。
- ・周辺農家にも積極的に水利用効果について話をしていきたい。



ばれいしょ農家のHさん

(ばれいしょの発芽状況)



畑かん営農のエキスパート！

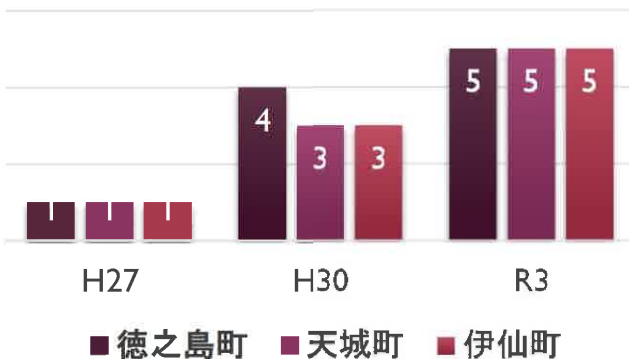
徳之島地域畑かんマイスターの取組

※畑かんマイスターとは、自ら畑かんを活用し、優れた営農を先駆的に実践している農業者等のこと

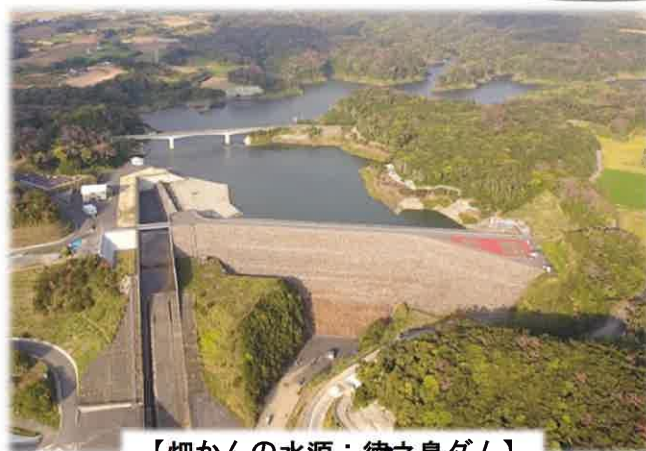
基幹作物のさとうきび、飼料作物、ばれいしょのみならず、畑かんを利用したしょうが、かぼちゃの園芸作物や果樹、花きの栽培を行い、展示ほ等により「見えるほ場化」に取り組んでいる。



畑かんマイスター委嘱人数



【畑かんマイスターの委嘱人数及び市町別構成】



【畑かんの水源：徳之島ダム】

【畑かんマイスターの声】

- ・収量が増加し、所得が向上した。
- ・水のありがたさをすごく感じた。
- ・経営が安定してきた。
- ・畑かん導入で土地の評価(価値)が上がってきた。
- ・島の将来のために、受益者の決断が重要。

基盤整備を契機として農地集積と高収益作物の生産拡大

【沖永良部地区】
(鹿児島県大島郡和泊町・知名町)

【工夫のポイント】

- 区画整理を契機とした**農地中間管理事業の活用**による担い手への農地の集積
- 国営地下ダムにより水源が確保され、畑かんの導入により**安定した農業経営が実現**し、**水利用効果が高く高収益な作物の生産が拡大**
- 畑かん営農振興組織を立ち上げ、研修会や水利用ルールの遵守のための活動等の**地域振興活動が推進**

【取組地域の概要】

- 位置
鹿児島県大島郡和泊町・知名町



- 主要作物
・さとうきび、ばれいしょ、さといも、花き等

- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(H19~R7)
・県営畑地帯総合整備事業(S57~R8)

基盤

基盤整備により経営規模の拡大と高収益作物の生産拡大

不整形な圃場と天候頼みの不安定な農業経営



基盤整備 (S56年~R7年)

農地集積による**農作業の効率化**や畑かん整備による**安定した畑作営農(高収益作物の導入)**が実現



【畑かん受益地位位置図】



畑かみを契機とした地域振興活動

- 畑かん営農研修会や**水利用ルール遵守のための検討会**などの地域振興活動を実施。

水利用研修会



地域の取組

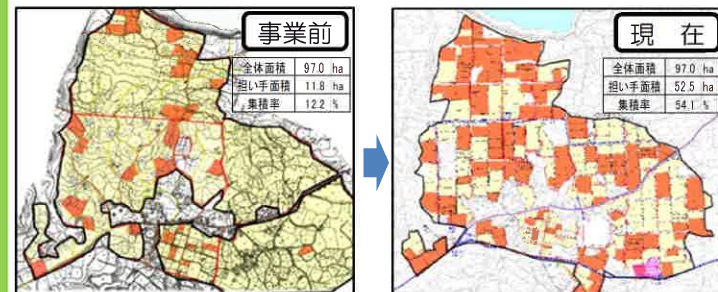
多面的機能支払交付金による地域保全

- 集落ぐるみで基盤整備区域の保全活動を推進

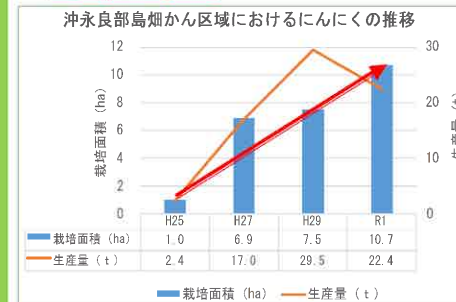


区画整理を契機とした担い手への農地集積

- 区画整理事業と**農地中間管理事業の活用**により、担い手への農地の集積が進んだ。



- 畑かんの導入により**水利用効果が高く高収益な作物の生産が拡大**している。



国営地下ダムからの一部通水が平成26年に開始され、畑かん区域における栽培面積が拡大している。

※栽培面積は、沖永良部島畑かんがいが営農推進協議会調べ
※生産量は、和泊町調べの生産量から算出した平均単収による